



2013年2月 記載要領変更に伴う改訂

第2類 医薬品

ご使用に際して、この説明文書を必ずお読みください。
また、必要な時読めるよう大切に保管してください。

アレルギー用薬

スラジンAは…

スラジンA

じんましん・湿疹・かゆみに
抗ヒスタミン剤
茵陳蒿湯乾燥エキス配合

抗ヒスタミン作用のあるクロルフェニ
ラミンマレイン酸塩と血管収縮作用の
ある*dl*-メチルエフェドリン塩酸塩に、
じんましんに効果のある茵陳蒿湯(いん
ちんこうとう)乾燥エキスを配合した抗
アレルギー薬です。

⚠ 使用上の注意

❌ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります)

1. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないでください
他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等(かぜ薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬、乗物酔い薬等)
2. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください
(眠気等があらわれることがあります。)
3. 長期連用しないでください

👤 相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者にご相談ください
(1) 医師の治療を受けている人。
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
(3) 授乳中の人。
(4) 高齢者。
(5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
(6) 次の症状のある人。
排尿困難
(7) 次の診断を受けた人。
心臓病、高血圧、糖尿病、甲状腺機能障害、緑内障
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者にご相談ください



関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	吐き気・嘔吐、食欲不振
泌 尿 器	排尿困難

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください

症状の名称	症 状
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっとする、血尿等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。

3. 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者にご相談ください
口のかわき、眠気
4. 5~6日間服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者にご相談ください

【効能】

じんましん、湿疹、かゆみ、かぶれ

【用法・用量】

下記の1回服用量を食後に服用します。

年齢	1回服用量	1日服用回数
大人(15才以上)	1錠	3回
15才未満	服用しないでください	

【用法・用量に関連する注意】

(1) 定められた用法・用量を厳守してください。

(2) 錠剤の取り出し方

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出してお飲みください。(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。)



【成分・分量と働き】3錠中

成分	分量	働き
クロルフェニラミン マレイン酸塩	12mg	抗ヒスタミン作用により、じんましん、湿疹などのアレルギー性疾患に効果をあらわします。
dl-メチルエフェドリン 塩酸塩	36mg	交感神経に働き、毛細血管を収縮することにより、じんましん、湿疹などのかゆみを抑えます。
茵陳蒿湯 (いんちんこうとう) 乾燥エキス	160mg (原生薬1,600mgに相当)	3種類の生薬(茵陳蒿、山梔子、大黃)からなり、じんましんに効果をあらわします。

添加物として、乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸Mg、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコール、ヒプロメロース、リン酸水素Ca、タルク、酸化チタン、白糖、ポリビニルアルコール(部分けん化物)、ポビドン、ジメチルポリシロキサン、二酸化ケイ素、赤色3号、黄色5号、カルナウバロウを含有します。

●保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。
(誤用の原因になったり品質が変わるおそれがあります。)
- (4) 使用期限をすぎた製品は、服用しないでください。



●早くよくなっていただくためのアドバイス

1. **食べ物**(肉・魚など)でじんましんが起きた時は、その食べ物はとらないようにしましょう。日頃からバランスのとれた食事に心がけ、強い香辛料をさげ、消化のよい食べ物をとりましょう。
2. **患部**はかかないようにしましょう。かくと化膿などを起こし、悪化するおそれがあります。
3. **入浴**はぬるめのお湯にしましょう。熱いお風呂に入るとかゆみが強くなる場合があります。
4. **便秘**を整えましょう。原因となった食べ物などを早く排出させるために大切なことです。また、下痢などの胃腸障害もじんましんをひき起こすことがありますので胃腸をこわさないように注意しましょう。

副作用被害救済制度のお問い合わせ先
(独)医薬品医療機器総合機構
<http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai.html>
電話 0120-149-931 (フリーダイヤル)

本製品についてのお問い合わせは、お買い求めの
お店又は下記にお願い申し上げます。
佐藤製薬株式会社 お客様相談窓口
電話 03(5412)7393
受付時間：9:00～17:00(土、日、祝日を除く)

製造販売元
佐藤製薬株式会社
東京都港区元赤坂1丁目5番27号